

校長室より⑧ ～「念力」を送ろう！～

○今日も富士宮西高等学校のホームページを御覧いただきまして、誠にありがとうございます。

皆様のおかげで、このコラムも8号を迎えることができました。

ここで、嬉しい御報告を一つ。

11月下旬に行われました、弓道部の新人戦東海大会。県大会を突破して進んだ男子団体が、東海大会「初出場初優勝」。個人でも2位に。12月の全国大会。西高弓道部の「挑戦」は続きます。ご声援の程、誠にありがとうございました。これからも、よろしくお願いします。

○今回は、学年ごと、西高生の近況をご報告させていただきます。

11月最終週に期末試験を終えた2年生。この12月は沖縄への修学旅行（3泊4日）で始まります。羽田から那覇へ、飛行機での移動。大切な平和学習からスタートし、そして民泊へ。

沖縄に暮らす方々との、温かい交流は、限られたひとときではありますが、大変思い出深いものとなります。皆様の優しさに触れ、自宅を離れているからこそ、気づくことのできるものがそこには数多くあります。民泊先のご家族の皆様、西高生を温かくお迎えくださり、本当にありがとうございました。

4日間の行程の中には、この他、グループ単位で、それぞれがタクシーで巡る班別研修等も、盛り込まれております。（少しのぞいてみます…、マリン体験に水族館訪問、食文化に触れる等々、大変魅力的なプランになっているようです。うらやましいですね！）

○この修学旅行は西高生にとって、実は「一つの節目」ともなる行事です。

3年生を「お手本」に、将来の「目標達成」に向けた準備を始めるきっかけにしよう、そんな思いで参加をしている人もいます。

3年生の背中を日々追いかけながら、にこやかに明るく、各教科の勉強に、部活動に、校外での活動に取り組んでいる西高生です。お互いの良さを互いに認め合いながら、「安心して」「とことん」打ち込むことができる。それが富士宮西高校であり、互いの良さを、互いに引き出し合って、高め合う。そうした「風土」が本校にはあります。だから「安心」なのですね。

先輩方から代々受け継がれてきた、大事な「財産」である、とも言えます。

○さて、校内です。

2年生が修学旅行に出かけている一方で、1年生、3年生は「期末試験」に挑戦します。

1年生は自分の得手、不得手が分かってきて、中には「苦手科目」との付き合い方を、見つけ出しつつある生徒もいるようです。頼もしい、さすがですね。

完全に「嫌い」になってしまうのではなく「付き合い方」を見出す。不得手な科目でも、こうすれば少し見えてくる。こうしたら、解けるようになるのだな…。それぞれに工夫があるものです。1年生に尋ねてみると、周りの仲間の姿や言葉、やり方に、ヒントを得た人が少なくないよう。頼りになる「仲間」の存在。これもうれしいですね。

（これは高校段階の、苦手科目との「付き合い方」に留まらないで、もしかしたら君らが将来、担（にな）うことになる「お仕事」にも通じるのかもしれませんが。一見「難しそう」な仕事との「付き合い方」。周りの先輩、仲間のやり方や言葉を頼りにする。良かったら心に留めておいてください。）

○最後に3年生です。

職員室前自習コーナーや、演習に取り組む君らの教室の前を通る時には、私自身、なるべく足音を立てないように、いつしか自然と気を付けるようになりました。こちらをそうした気持ちにさせるほど、今の君たちの姿には「真剣さ」が伝わってくる、ということです。

「今ならば力がつく」、という時。「力がつくのには、タイミングがある」のだとしたら、「潮時」というものがある、ということになります。積み重ねて、積み重ねて、続けていった先にやっと訪れる、その「時」。

だとすれば、今、時間を惜しんで自学を重ねる君ら3年生は、いよいよその「時」が近いのかもしれませんが。緊張感をもって弱点の補強に努める。

時には、不安を抱えながら机に向かう、そうした時もあるでしょう。

同じく努力を重ねる仲間の存在。温かく応援してくれている後輩の姿。先生方の個々への声かけ、アドバイス。これらも本当にありがたいですね。

○良いと思われることは試してみる。机に向かう君らの姿を遠くから眺めながら「がんばれ！」と念力を送っているのは、私だけではないはずです。

苦勞して 自分でつかんだものだけが 手元に残る 「高校生活」

○一生を生き抜く糧（かて）を、今まさに、その手につかもうとしている君らよ。

大いに励め！ 自分を信じて！ そして「感謝」！

校長 鈴木邦浩（令和7年12月上旬）